

令和7年度の学校評価

本年度の 重点目標 (評価項目)	①	キャリア教育の推進	
	②	安全・安心な学校づくり	
	③	授業力・専門性の向上	
	④	豊かな心と健やかな体の育成	
	⑤	授業・行事の充実	
	⑥	センター的機能の充実と理解促進	
	⑦	開かれた学校づくり	
自己評価			
担当	評価項目	目標・具体的方策	留意事項
幼小学部	⑤	友達や周りの人と協力して活動する態度を養うための指導の内容や在り方を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童が、一緒に活動する場面を設定する。</li> <li>・校外学習や体験的な活動をする場面を設定し、学校外の人と関わる機会を増やす。</li> <li>・同年代との交流及び共同学習の機会を増やすために、ICTを活用し、オンラインでの交流や授業を積極的に行う。</li> <li>・幼児児童の情報共有を密にし、チームで目標達成を目指す。</li> </ul>
中学部	②	教室の環境を整理し、生徒が学びやすく、安心して過ごせる環境を用意する。具体的には、生徒の視覚特性に合わせた視覚補助具や教室の明るさ、動線を確保し、大規模地震に備え書架等の固定や物品の整理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚補助具や視機能を再評価し適切なものが使用されていることを確認する。</li> <li>・教室の明るさはカーテンと照明で調整できるようにする。</li> <li>・教室備品を必要なもののみを常設するようにし動線を確保する。</li> <li>・書架等の固定は、固定の状況を確認する。</li> <li>・教室備品は必要なもののみを残し、他のものは収納・処分する。</li> </ul>
高等部	③	OJTを通して、視覚障害教育の専門性と指導力の向上に取り組む。他校とのオンライン授業を通して、主体的で対話的な学習の充実を図り、授業改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点字使用の生徒を対象とした教材や考査問題の作成、会議資料の点訳、弱視児を対象とした教育相談の実施・参観などを通して、他の職員と相談しながら点訳及び視覚支援のスキルアップに取り組む。</li> <li>・他校とのオンライン授業を計画的に行い、主体的で対話的な学習の機会を増やす。また、それらの授業実施・参観を通して日々の授業改善に努める。</li> </ul>
総務	⑤	幼児児童生徒の成長や活躍を共有できる文化祭にする。舞台発表やコーナー企画などについて、幼児児童生徒と教員の思いをくみとって、適切に調整を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒、教員が円滑に準備できるように、1学期中に大綱を示す。</li> <li>・幼児児童生徒、教員が円滑に準備できるように、各係のマニュアル等を整備する。</li> </ul>
教務	③ ⑤	各教科等の授業力の向上を図るとともに、他部と連携してつながりのある一貫した指導を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回校内授業参観を実施することで、他教科や他部の様子を知り、担当教科の授業力向上につなげる。</li> <li>・各教科等を合わせた指導や自立活動を含む「教科会2」の回数を増やす。</li> <li>・各部の指導内容を共有するとともに、幼稚部から高等部までつながりのある指導ができるよう話し合いを進める。</li> </ul>
生徒指導	②	本校の実態や社会状況を踏まえて、各避難訓練の実施回数や実施内容を見直し、安全・安心な学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修や一斉下校訓練、地震・火災避難訓練をとおして幼児児童生徒及び教職員の防災意識の向上を図る。</li> <li>・不審者対応訓練の実施回数を見直すとともに、幼児児童生徒の実態に合わせた防犯教室を行う。</li> </ul>
進路指導	①	各家庭の進路希望やニーズを具体的に把握し、広い視野から適切な進路先の判断ができるための情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の進路相談のほか、進路情報誌「DREAM」を媒体として、読みやすく、より興味がもてる内容の情報発信に努める。</li> </ul>
保健体育	② ④	子どもたち及び教職員が学校版環境ISOを意識して、環境にやさしい行動を考えられるように、環境保全や環境問題の解決に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの取組から、資源を大切にしたり使い方を工夫したりする活動を日常の中で呼びかけていく。</li> <li>・エコキャップ等の回収で社会貢献を意識できるようにする。</li> <li>・安全点検を児童生徒と取り組むことで、学校を大切にしようとする心を育む。</li> </ul>

教育情報	③	更改された機器等の利用方法を職員に紹介し、授業に活用できるようにする。ホームページのCMS化を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌の中で使用する機会を設定し、使い方の確認を行う</li> <li>・外部の研修等に参加し、利用を促進していく。</li> <li>・部分的にCMSホームページを構築していく。</li> </ul>
	⑤	読書週間の「声の図書館」では、児童生徒・職員の興味ある書籍を自身で読んで録音して放送するなど、内容を改善し、職員間の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒だけではなく、教員も参加して興味深い取り組みにしていく。</li> </ul>
自立活動	②	視覚障害教育の専門性向上に向けた研修の実施回数や内容の精選を行う。研修以外の場面でも、職員が指導の参考とできる資料の整理・閲覧環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートなどをもとに、職員のニーズに沿った内容の研修、回数を検討、計画する。</li> <li>・専門性が必要な指導場面で困ったときにすぐに資料が手に入ることをイメージし、冊子やサーバー上などで簡単に閲覧できるような環境を整備する。</li> </ul>
	④	視覚障害をもった児童生徒が在籍する小中学校のニーズに沿った研修の計画・実施を行う。参加した担当者だけでなく、研修で得た情報が参加校全体に周知・共有してもらえるような資料の作成や実施方法を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換やアンケートなどから、指導者の困り感やニーズに沿った内容の研修内容を検討・計画する。</li> <li>・研修会の内容を学校全体で周知・共有していくことを確認したり、情報交換会で各校の情報の共有の方法などを話題に取り上げたりする。</li> </ul>
理療科	③	第三者評価(灸)の評価基準・項目について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価シートを作成し、授業における指導内容や採点について教員間の共通理解を図る。</li> <li>・評価の項目・基準の明確化、数値化により、評価の客観性を高める。</li> </ul>
寮務部	④	寄宿舎と学校や保護者とのつながりを意識することで、舎生を包括的に指導できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生の生活目標の設定を担任と保護者と連携して作成する。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		保護者や地域、関係諸機関に対し、授業公開日や行事及びホームページを通して、分かりやすい情報発信に努める。地域の小中学校と情報を共有し、盲学校を正しく知ってもらうとともに連携強化を図る。	
学校いじめ防止基本方針に基づく取組について		児童生徒への生活アンケート(年3回)、教職員への「いじめ防止取組」アンケートによりの確な状況把握に努める。人権教育の取組から児童生徒間の交友をより深める。	
勤務時間の適性な管理及び長時間労働による健康障害防止について		在校時間記録により勤務状況を把握し、適切な勤務時間内で業務が進められるよう業務の改善や見直しを定期的実施する。合わせて施錠時刻の繰り上げ、定時退校日を増やすなどして、効率よく業務を進められるようにする。	